



## 「学びも遊びも全力で！！」

学生担当 菊入 崇

大学生活の6年間は、歯科医師となるための専門的な知識を学ぶだけでなく、医療人としての土台を築き、自分自身を深く理解するためのかけがえのない時間です。卒業後には、教科書に正解が載っていない複雑な問題に直面し、多様な価値観や背景を持つ人々と協働する力が求められます。そのためには、思いやり、責任感、誠実さといった人間性が不可欠です。日々の友人関係、部活動、アルバイトなどの経験を通して、他者を尊重し、違いを受け入れる姿勢を意識してください。また、授業や課題に追われる日常の中でも、自分は何に心が動き、何に熱中できるのか、自分の興味や価値観に耳を傾けましょう。失敗や挫折も成長の糧であり、仲間と語り合い、新しい世界に触れることで視野は大きく広がります。今しかできない挑戦を恐れずに飛び込み、知識とともに人としての力を育んでください。そうして積み重ねた経験と努力は、いつか必ず報われ、自分を信じて歩んできた道こそが、将来、歯科医師としてのあなたを支える真の力となります。

(教授 小児歯科学講座)

## ワールド・カフェ

井上 碧瑠

6月1日に行われたワールド・カフェに参加し、「大学ってどんなところ?」と言うテーマで他学部の学生とディスカッションを行いました。普段は接点のない学生同士が集まり、リラックスした雰囲気の中で自由に意見を交わせたことがとても新鮮で、貴重な体験になりました。

印象的だったのは、話し合いの中で出てきた「人との出会い」に関する意見の多さです。実際に模造紙の左側には「恋愛」、「友達と知り合う」など、人間関係に関する付箋が多く貼られていました。大学は学問の場であると同時に、新しい人間関係を築き、自分の価値観を広げていく場所でもあるという考えに深く共感しました。また、「自由」、「一人暮らし」、「自立」といったキーワードからは、学生生活の中で自分の行動を自分で選ぶ力が求められていることが伝わってきました。大学は、ただ知識を学ぶだけでなく、自分自身と向き合い、社会に出る準備をする大切な時期であるものだと実感しました。ディスカッションの場では、「専門知識を深める」、「設備が整っている」、「レポートが多い」といった意見もあり、学びの環境としての大学の特徴も再確認できました。

こうした多角的な視点を共有できたことで、自分が普段何気なく過ごしている大学生活を改めて見つめ直すきっかけになりました。今後もこうした交流を通じて自分の学びに対する意識を深めていきながら、自分自身の成長につなげていきたいと思います。

(第1学年)



窪川 美生

私は、6月1日に行われたワールド・カフェの経済学部会場に参加しました。ワールド・カフェは日本大学全学部の学生が参加しており、専攻の異なる学生と交流することができるイベントです。学部の異なる学生同士で、与えられたテーマについて討論することで、知見を広めることを目的に開催されています。今回のテーマは「大学ってどんなところ?」でした。

まず初めに、6人程度のグループ内で名前と学部学科を自己紹介し合いました。次に、自身が所属する学部学科の長所と短所を付箋に書き出し、発表しました。そして、その付箋を模造紙上で「授業」や「勉強」など大まかにグループ分けをしていきました。自分たちの意見がまとまるごとに、グループを移動し、他のグループと意見交換をしました。ここでは最初のメンバーでは出なかった意見が多く出ました。その後、元に戻り、これらの意見を模造紙に追加しました。最後に自由に他の班の意見が貼られている模造紙を見て回って解散となりました。他の班のまとめ方は私がいたグループのものとは異なり、まとめると言ってもさまざまなやり方があるのだと実感しました。

今回のワールド・カフェを通して、同じ日本大学の学生といつても学部の設備や履修方法が様々であり、皆それぞれ異なる学生生活を送っていることを改めて実感しました。またこのイベントで同じ塾に通っていた友人と再会できたり、同じ班になった人と仲良くなれたりできたことは、とても嬉しかったです。私自身の知見や人脈を広げられただけでなく、日本大学の理念である「自主創造(自ら考え自ら学ぶ)」を積極的に実践できた非常に有意義な経験となり、とても良かったです。

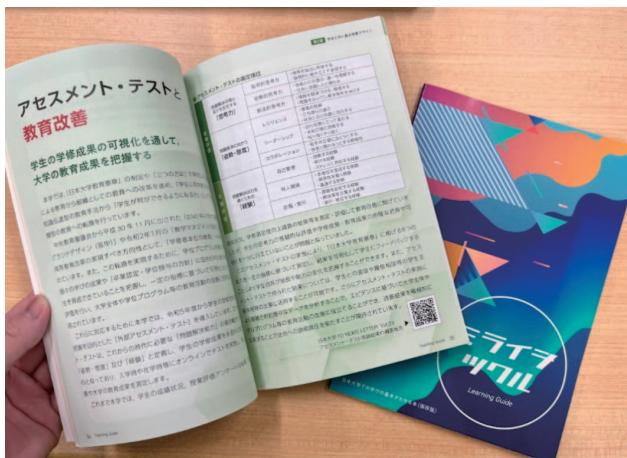
(第1学年)



## 令和7年度 新規採用専任教員における 動画等による研修

森山 鮎子

令和7年度新規採用専任教員に向けて、動画配信によるオンライン研修が行われました。動画やチェックテストを通して日本大学の歴史や自主創造の基礎、より良いシラバスの作成方法、私立大学の社会的立ち位置や将来の展望を学びました。学生の効率的な能力向上には、細かな目標設定・的確な評価方法が不可欠であり、これまでの「授業を受ける」学生という目線から、新たに「授業を行う」教員の視点を養うことができ、今後の教育活動に有意義な研修となりました。  
(助教 歯科放射線学講座)



## 全学FDワークショップ 日本大学版教育イノベーションに 必要なこと

—多様な学部の課題を出発点とした  
教育改善に向けた方向性の検討—

日 時:令和7年8月29日(金)13:00~17:00  
場 所:日本大学会館

津田 啓方

今年度は、総合大学である日本大学の特性を生かした教育革新の方策について文系・理系・医療系に分かれて議論しました。医療系では、国家試験合格率の向上だけでなく「学生の学習意欲を高める必要がある」との意見から、学部横断的にケース課題の解決に取り組む学修の場の提供が提案されました。さらに、各業界の第一線で活躍する方の参加や、他学部との合同研修合宿を通じて、学生のモチベーション向上やコミュニケーション幅の拡大を目指す案としてまとめられました。今回のFDワークショップを通じ、従来の授業中心型から問題発見・解決型教育への転換が日本でも求められていることを実感し、あわせて、教員の相当なレベルアップの必要性を強く感じた半日となりました。

(准教授 生化学講座)

蓮池 聰

令和7年度全学FDワークショップでは、文系・理系・医療系の分野別にグループ討議が行われ、教育上の課題を共有し、教育改善の方向性を探ることが目的とされました。他のグループでは、AIとの関わり方や出席記録の方法など、ICT活用についての議論が多く見られました。私が参加した医療系グループでは、国家試験合格を見据えたうえで、6年間にわたってモチベーションを維持するための方策について話し合いました。討議の中で、医療人としての視野を広げることが重要という認識が共有され、学部間連携による教育プログラムの導入が提案されました。本ワークショップで得られた示唆を還元し、教育環境の構築に活かしていきたいと思います。

(准教授 歯科保存学第Ⅲ講座)



## 歯学部学生FDしゃべり場

日 時：令和7年6月23日(月) 17:10～19:00

場 所：日本大学歯学部本館1階

ラーニングコモンズ

岡田 真治

本年6月、FD委員、学生担当、学務担当の教員および有志の学生間で、歯学部FDしゃべり場が行われました。これは大学本部で開催される『学生FD CHAmiT』にむけて、「学部で対応可能な意見に対する報告」、「他学部あるいは本部の協力が必要な意見に対する報告」といった内容を自由な形態で議論するものです。例年では『学生FD CHAmiT』で抽出された内容の解決案を各学部のしゃべり場で話すものでしたが、本年からは逆の順序で行われました。初め学生からの意見は出づらかったですが、最終的には学生からの自由な意見に教員が時に協調する有意義な時間となりました。学生の言葉を借りますが、歯科大学はUniversityであり国家試験のための予備校にしてはいけない、この言葉が守られるためには学生と教員が意見を交わす時間は必要に感じられました。

(助教 歯科補綴学第I講座)

麻生 悠

先日、令和7年度歯学部学生FDしゃべり場が開催され、主に歯学部で改善、改良すべきことについて話し合いました。具体的には、『講義の出席確認』『講義のzoom録画』『学生のBOXシステムの理解度』について議論を行いました。これらについて学生、教員の双方の視点から意見を共有しました。また、学生間でもそれぞれの学年の授業のカリキュラムから良い・悪いポイントを共有しました。今回のしゃべり場で、私が特に感じたのは講義のzoom録画のメリット、デメリットがあり学生、教員それぞれの視点で色々な意見があるということです。そして、歯学部での学修の重要性を含め様々な気づきがあり今一度、自分の行動を振り返ろうかと思いました。非常に価値のある一時でした。

(第3学年)



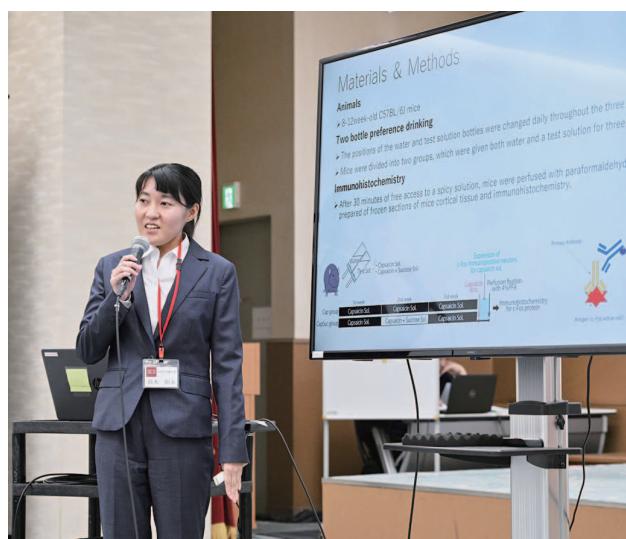
## SCRP

高木 絹未

2025年8月5日、令和7年度日本歯科医師会スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム(SCRP)日本代表選抜大会に出場致しました。薬理学講座にて約1年半、「カプサイシンに嗜好性を示すマウスの活性化脳領域の探索」をテーマに研究しました。辛味は本能的に忌避される痛みとして感じ、その嗜好性は経験や学習に基づく環境的要因によって変化すると考えられます。そこで、本研究ではマウスに辛味と幸福を感じる経験を同時に与えることで、辛味に対する嗜好性が変化するのかを調べました。さらに、その変化が生じた時のマウスの活性化脳領域を免疫染色法で検出し、どのような機能が関与しているか調べました。毎日マウスの飲水量や体重の測定を行ったり、解析を行ったりと大変な実験でしたが、結果が出た時は達成感を味わえたので、とても良い経験になりました。大会当日は、英語でのプレゼンテーションと質疑応答による審査が行われました。英語での発表には自信がありましたが、質疑応答でうまく実力を発揮できなくて残念でした。しかし、他大学の代表学生が研究に対して、懸命に取り組んでいる姿に魅力を感じ、大変刺激を受けました。残念ながら上位入賞とはなりませんでしたが、今回の出場経験は今後の自分の歯科医師としての人生にとってかけがえのないものになりました。

最後に、研究を指導していただいた小林真之先生、小林理美先生、北野先生、発表の練習をサポートしていただいた田嶋先生、マーニ先生をはじめとする先生方に感謝申し上げます。

(第5学年)



## 歯学体を終えて



歯学体正評議員 田中 協大

今年度の「全日本歯学学生総合体育大会」において、日本大学歯学部は総合優勝を果たすことができました。これまでに積み重ねてきた9回の総合優勝、12回の準優勝という歴史に、新たに輝かしい1勝を加えることができたのは、選手一人一人の努力とチーム全体の団結の賜物です。各部活動が日頃から学業とクラブ活動を両立させながら、互いに励まし合い、練習に取り組んできた成果が、今大会で存分に発揮されました。競技の勝敗を超えて、仲間を信じ支え合う姿勢、最後まで諦めない気持ちこそが、本学の強さだと感じています。また、この優勝は選手や部員だけでなく、日々支えてくださった先生方、保護者の皆さま、そして応援してくださった先輩方のお力添えがあってこそ成し得たものです。今回の経験は、喜びや達成感、苦しい場面を乗り越えた自信として、これから的人生や臨床の現場でも必ず生きてくることでしょう。この優勝を胸に、次の目標へ向けて、共に新たな挑戦を重ねていきましょう。

(第5学年)



## 第57回全日本歯科学生総合体育大会 総合成績

順位	大学名	得点
優勝	日本大学歯学部	145.5点
準優勝	東京歯科大学	118.0点
3位	広島大学歯学部	99.4点
4位	九州歯科大学	94.0点
5位	日本歯科大学生命歯学部	89.0点

### 本学部が得点した部門

#### 夏期部門

1位	卓球部	19点
	柔道部	17点
	洋弓部	14点
	日本拳法部	13点
2位	水泳部	15点
	バレー部	14点
	陸上競技部	14点

### 夏期部門の個人種目入賞者

#### (バレー部)

【MVP】ニッ谷和那美 (6年)

#### (水泳部)

【優勝】加藤楓 (1年) <女子200m自由形>

塚田海都 (3年) <男子200m自由形>

【準優勝】鈴木大智 (4年) <男子200m平泳ぎ>

【3位】鈴木大智 (4年) <男子100m平泳ぎ>

#### (卓球部)

【優勝】富永龍 (3年) <男子個人>

国岡真由 (6年) <女子個人>

#### (柔道部)

【優勝】今村一能 (4年) <男子 -73kg級>

Park Jaeie (3年) <女子個人>

#### (陸上競技部)

【優勝】中村健太郎 (4年) <砲丸投げ(大会新),やり投げ,円盤投げ>

若井美羽 (1年) <200m,走幅跳>

【準優勝】若井美羽 (1年) <100m>

エルサフティウルジ (2年) <やり投げ>

中村菜々 (2年), 渡邊沙莉衣 (1年), エルサフティウルジ (2年), 若井美羽 (1年) <女子4×100mR>

【3位】中村菜々 (2年) <砲丸投げ,やり投げ>

齊木洸将 (5年) <三段跳び>

中村菜々 (2年), エルサフティウルジ (2年), 若井美羽 (1年), 本島和佳奈 (1年) <女子4×400mR>

#### (空手道部)

【3位】金安美加子 (4年) <女子個人>

#### (剣道部)

【優勝】青木知香 (5年) <女子個人>

#### (日本拳法部)

【優勝】川路泰生 (3年) <男子個人>

佐藤凜音 (1年) <男子新人戦>

【準優勝】川俣航平 (5年) <男子個人>

鈴木一登 (1年) <男子新人戦>

#### (ゴルフ部)

【準優勝】杉本妃菜 (2年) <女子個人>

#### (アーチェリー部)

【準優勝】峯村桃子 (4年) <女子個人30m>

【3位】道本里菜 (2年) <女子個人30m>,

今井日菜子 (4年) <女子個人50m>



## 優勝 卓球部

主将 富永 龍

今年度のオールデンタルは8月6日～9日、鹿児島県のあいハウジングアリーナ松元にて開催されました。本大会において、本学部卓球部は総合優勝を果たし、三連覇を達成いたしました。私自身も男子個人戦で二連覇を達成し、男子団体戦では悲願であった創部初の優勝を経験いたしました。また、女子個人戦では第6学年の国岡真由さんが優勝（三連覇）を果たし、女子団体戦でも準優勝を収め、部全体として大きな成果を収めることができました。大会期間中、遠方の鹿児島まで足をお運びくださった先生方、また日頃よりご指導・ご支援くださる先生方に、心より御礼申し上げます。主将として臨んだ初の大会でこのような結果を残すことができ、先生方に良い報告ができたことを大変嬉しく思っております。今後も伝統を大切にしながら、更なる飛躍を目指して精進してまいります。

（第3学年）



## 優勝 柔道部

主将 今村 一能

スープレックスこそ我が人生。

そんな私が、今回のオールデンタルでは背負い投げを多用した。勝ちに徹したのだ。その甲斐あって団体戦は全試合一本勝ちを納め、団体戦優勝に貢献できた。個人的にロマン溢れるスープレックスを一度もせずに試合を終えた時、むなしかった。自分が取るに足らないくだらない男に成り下がってしまった気がした。だが決勝戦を勝利で終えた瞬間の仲間の笑顔、応援に駆けつけてくれた人たちの拍手が私を肯定してくれたような気がした。

（第4学年）



## 優勝 日本拳法部

主将 松岡 虎紀介

歯学部の日本拳法部門で、団体戦四連覇を達成しました。さらに個人戦新人戦では、部員が優勝・準優勝を収める好成績を残しました。日々の稽古に加え、熱心に指導してくださったOBの先輩方や、試合や準備を支えてくれたマネージャー、そして一緒に戦った仲間たちのおかげで成し遂げられた結果です。個人の力だけでなく、チーム全員で勝ち取った四連覇と、個人戦での素晴らしい成績となりました。

（第4学年）



## 優勝 洋弓部

主将 今井 日菜子

洋弓部は、デンタル優勝を目標に掲げ練習に取り組んで来ました。コロナ禍が明け再開となったデンタルでは、一昨年、昨年と準優勝で、悔しい思いをしてきました。しかしその結果を胸に、部員一人一人が真摯に競技に向き合い、互いの応援やサポートに尽力したことで、悲願の総合優勝を達成することができました。日頃の練習の成果をこのような形で発揮することができ、主将として部員たちの努力を大変誇らしく思います。長い間届かなかった総合優勝を大学に持ち帰ることができ嬉しい限りです。

日頃からご指導、ご支援くださっているOB、OGの先生方、先輩方、温かい応援とお祝いの言葉に心より感謝申し上げます。今後もより一層努力を続け、さらなる洋弓部の発展に寄与していかなければと思います。

（第4学年）





## 準優勝 陸上競技部

主将 中村 健太郎

第57回オールデンタル陸上競技部門において、本学は総合で準優勝、女子総合で優勝という好成績を収めました。慣れない佐渡の地での開催でしたが、部員一人ひとりが全力を尽くし、男子もフィールド部門で優勝するなど健闘しました。多くのOBOGや先生方のご支援により、最後まで粘り強く戦うことができました。この経験を糧に、来年こそは総合優勝を目指してさらなる努力を重ねてまいります。

(第4学年)



## 準優勝 バレーボール部

主将 西澤 俊太郎

バレーボール部は、男子が最後まで諦めぬ闘志を見せ4位入賞、女子は結束力と粘り強さで見事優勝を果たし、総合準優勝という栄誉を手にしました。仲間を信じ合い積み重ねた努力が実を結んだ瞬間であり、会場は大きな達成感に包まれました。この経験を糧に、さらなる高みを目指し挑戦を続けていきます。

(第5学年)

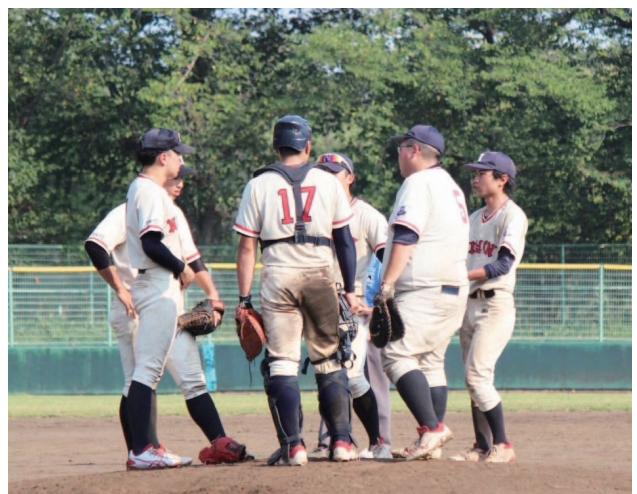


## 準優勝 水泳部

主将 鈴木 大智

水泳部は、念願の三連覇を目指した今大会で、総合準優勝という成績を収めました。女子は見事一位に輝き、男子も最後まで全力を尽くし、部員全員が全力で泳ぎ抜きました。日頃の練習の成果を形にできたことは本当に誇らしく、チームの絆をさらに深める大会になりました。温かくご指導くださる先生方、応援してくださる先輩方、そして共に励まし合った仲間に心より感謝申し上げます。これからも水泳部らしく前向きに挑戦を続け、来年は王座に返り咲くことを目指してまいります。

(第4学年)





## 駿河台にて

米山 隆之



駿河台に通うようになったのは大学院に入学した1985年4月。神田駿河台2丁目にある研究所で、超弾性や形状記憶で知られるニッケルチタン合金に関する研究を始めた。歯科医師としてのアルバイトにもせっせと励んでいたのだが、実際に研究というものを始めてみると、いろいろ調べて計画し工夫して実験したり、データをまとめて学会発表したりすることが意外に楽しく、3年生の時に学位論文となる原著論文2報をまとめることができた。当初は先輩たちのように大学院を修了したら開業しようと思っていたのだが、研究室のボスからお誘いいただいたので、しばらくの間、公務員になって研究者という仕事に就いてみることにした。この選択が駿河台との縁を深めることになる。

駆け出しのサラリーマンとして、材料工学と歯科臨床の橋渡し的な立ち位置で研究をするようになり、次第に共同研究の輪が広がっていった。国際会議での学会発表を通じて、海外の研究者と交流する機会が増えた頃、長期派遣研究員のチャンスをいただいた。そこで、駿河台通いは約9年で中断し、家族3人でロンドン暮らしを満喫することになった。2年弱のロンドン滞在では新しい高強度生体用チタン合金と出会うことができ、歯科鋳造用として市販されることになった。

帰国後に神田駿河台2丁目に戻ってきたが、この頃には開業医になろうという気持ちは徐々に薄れ、補綴、矯正、歯内など臨床系の先生方と協力して、チタン合金の歯科応用に関する研究を進めた。そして2007年に転職することになるのだが、転職先は神田駿河台1丁目、徒歩数分の所であったため、駿河台通いが続くことになった。歴史を感じさせる1号館には会議で数回お邪魔したことがあったが、4階のオフィスはピカピカであった。

それから18年が過ぎ、その間オフィスは本館に移動した。駿河台に通うようになって40年が過ぎ、今では第2の故郷ともいえる場所である。来年の3月には定年退職を迎える。駿河台では多くの出会いに恵まれた。駿河台では大いに呑んだ。駿河台は第1の故郷なのかもしれない。

(教授 歯科理工学講座)

## 歯学部は人の輪

大谷 賢二



歯学部に入学して45年が経ちました。所属する局部床義歯の医局に残ってからでも39年の月日が流れています。「10年ひと昔」といいますが、「どんだけ昔なんだ！」という感じです。

学生時代は、入学前に見た岡本太郎の作品制作のTVの影響で真似がしたくなり、美術部に入り、6年間（ひと様が見ると）おかしな絵を描き続けました。

卒業後は、家が歯科関係ではなかったので、いきなり世間の荒波に揉まれる勇気もなかったので、数年大学に残ってみようと考えました。

入れ歯作りが面白かったのと、部活の先輩が多く在籍されていて、苦労が少ないかな？と勘違いして現在の医局に残させていただきました。

大学に残って初めのうちは、医局の先輩、他の医局に残った部活の先輩や同級生にいろいろと助けていただきました。特に医局の先輩方には、公私ともにお世話になり、非常に有意義な時間を過ごす事ができ、数年のつもりがどんどん時が流れていきました。

その後、学会や同窓会・保健審査会あるいは歯科医師会などで同窓や他大学の先生とのお付き合いが増えて来た時、非常に助けられたのは、学生時代あるいは卒後大学で知合った先生方との交友関係です。

初対面の先生でも、同窓なら「何回卒？何部？」から話が始まりますし、他校卒の先生でも「どこの教室？じゃあ○○先生知ってる？」から会話が始まりその後懇意にして頂くことがあります。60歳を超えた現在では、初対面の先生は、必ず自分の知り合いの知り合いであるといえる状況です。

それだけ歯科医の世界は狭いともいえるのですが、だからこそ人間関係が重要な世界だともいえます。

最近は、部活に参加しない学生さんが多かったり、卒後に大学に残る先生が少なくなったりという傾向が見られますが、将来の人間関係の構築という観点からは非常にもったいないと思います。卒後数年でも大学に残ってみると将来の展望が大きく変わってくると思います。

歯科界は人の輪が和となって成り立っている世界なのですから。 (専任講師 歯科補綴学第Ⅱ講座)



## 「死体は語る」

上野 正彦著

小林 理美

人生を変えた本として私がこれを推薦すると、内容をご存知の方は「ずいぶんと畠違いな本で人生を変えたな」と思うかもしれない。この本は、元監察医で法医学者の上野正彦先生による著書で、検死や解剖を通じて解明してきた実際の事件・事故を綴った大ベストセラー作品である。メジャーなものからマイナーなものまで、様々な事件・事故を科学的な視点で、かつユーモラスな口調で語っており、ひとつのエピソードは短く読みやすい。



この本に出会ったとき私は中学3年生だった。「偽装殺人、他殺を装った自殺、猟奇事件…。どんなに誤魔化そうとしても、もの言わぬ死体は、背後に潜む人間の憎しみや苦悩を雄弁に語りだす。」という売り文句に惹かれたのは、当時ミステリーノンフィクションにはまっていなかったせいもある。事実は

小説よりも奇なりとはよく言ったもので、初めて読むノンフィクション作品に、受験勉強を投げ出して夢中でページを繰ったのを覚えている。

本の中に「ネズミモチ」というエピソードある。これは、身代金目的で誘拐され行方不明となった子供の遺体が発見され、その個人識別にネズミモチという植物が役立ったという話だ。このエピソードは「医学の分野には、ネズミモチという名称や用語は、どこを調べても出てこない。」という一文から始まり、「医学に無縁なものが事件解決に大きな役割を果たしている場合が多くある。しかし、なんでも利用し応用する、この自然科学が私は好きなのである。」と締められている。美術以外の科目が嫌いで、「数学? 将来なんの役に立つんですか~?」を本気で言っていた私だったが「何がどう将来役に立つか分からぬ、何でも勉強しろということか」と解釈し、投げ出していた受験勉強を再開した。

この他にも本の中には科学の素晴らしさを改めて感じられる多数のエピソードがあり、今の私を構成する要素となっている。 (助教 生物学講座)

## 進学相談会を終えて

企画・広報委員会副委員長 松本 邦史

6月から8月にかけて計3回の進学相談会が実施されました。教員による全体説明、歯学部紹介、校内見学、個別相談からなる一連のプログラムは、各回150名の定員に対し、いずれもほぼ満員となりました。

昨年の第3回相談会で参加者から好評を得た「在学生による歯学部紹介」は、本年度からレギュラー企画として定着しました。第1回は西出怜央さん(第6学年)、第2回は今仲晏智さん(第5学年)、第3回は赤松孝則さん(第5学年)が担当し、それぞれ工夫を凝らしたスライドを用い、ユーモアを交えながら歯学部の魅力を紹介しました。

校内見学後は希望者を対象に個別相談が行われ、約10のブースに分かれた会場では、配置された教員が選抜試験、日々の学習環境、国家試験、さらには歯科医師としての将来性に至るまで、参加者の具体的な質問に丁寧に対応しました。また「在学生との対話」コーナーにも多くの参加者が集まり、有志の在学生6~8名に学生生活の実際について熱心に質問する姿が見られました。

第3回(8月21日)には、会場となった百周年記念講堂の前で林理事長と大貫学長が参加者一組一組を温かく出迎えられ、相談会をより印象深いものとしました。

参加者アンケートには、在学生との対話や歯学部紹介、さらに飯沼歯学部長による熱意ある学部紹介に関するコメントが多く寄せられました。今回の相談会を通じて、参加者は歯科医師という職業の魅力、そして本学の魅力を存分に感じ取っていただけたことだと思います。 (教授 歯科放射線学講座)



## オピニオン

○自分の価値を証明したい。誰もが一度は抱いた願いだろう。私がその願いを捨て去ったのは高校生の時だ。中学生の頃、私は些か勉強ができ、周囲に自分の優秀さをひけらかすことに躍起になっていた。これが砂上の楼閣であるとは知らずに。高校に入学した私は現実を突きつけられる。何の銜いもなく勉学に励み、優秀な成績を収める者。趣味の世界で成果を上げる者。様々な人間がいる中で私の存在は影の中に溶けていた。勉強でも趣味でもスポーツでも友の姿は霞の向こうにあり、何度も手を伸ばした。しかし、手中に残るものは何もなく、冷えた風が指先を掠めるだけ。価値証明という願いは悴んだ両手で持つには重すぎて、手放すことしかできなかつた。そして、私は凡庸という安寧の地に腰を下ろした。過去の自分は今の自分を情けなく思うだろう。だが、それでいいのだ。ここでは、かつて持ち得なかつた自由が享受できるのだから。

(1年 藤井 涼太)

○現在、2年生では特に人体解剖学実習での貴重な学びから、「なおす」ために必要となる知識と技術を習得させていただいている。前段階として、前期に筋肉、神経、内臓、脈管系などを座学の授業で学んでいた。実習に取り組む前には、教科書だけでは得ることができない学びへの期待と未熟な自分が成し遂げることができるとの不安があふれていた。実習初日、黙祷に始まり、ご遺体にメスを入れた瞬間、不安な気持ちは一掃された。医療人を目指す道を決意してから初めて、一人の方と向き合うことのできる貴重な実習を通して、「なおす」ために必要な知識だけでなく、「なおす」ために必要な強い倫理観、医療人としての責任を強く感じた。今、改めて、医療人を目指すものとしての自分の立場を認識し、将来社会において果たすべき自分の役割はなにか、そのために今自分がすべきことを見つめ直している。実習最終日まで、感謝を忘れずに学びを全うしたい。

(2年 杉村 日和子)

○高校の同期で学部の先輩、私がここに入ってから初めてちゃんとしゃべった（ような気がする）という至って奇妙で薄い関係の彼女がSNSで結婚妊娠報告をしているのを見つけ、同じ年なのにこうも違うのかと感慨深く思っている今日この頃です。人生は一度きり、百人百色、と「大学生の今だからこそできることを」と思い、やれ奇術だ、やれ桜歯祭実行委員だと手を伸ばしていたら、表からは見えない仕事のオンパレードでてんやわんやの大騒ぎとはこの

事かと実感しています。「経験を賢く生かすならば、何事も時間の無駄とはならない」という『考える人』で有名な彫刻家ロダンの言葉を胸に、これらの経験が将来の糧となるよう、健康第一で邁進していきたいと思います。

(3年 竹内 玲奈)

○今年はCBTとOSCEという大きな試験を控え、勉強をがんばらないといけない年といえます。勉強の大変さに不安を感じることもありますが、合格に向けて、少しづつ前に進む努力を続けていきたいと思っています。勉強だけでなく、私は、水泳部で主務とマネージャーをしており、選手を支えるためにやることはたくさんあります。加えて、桜歯祭の幹部にもなり、正直、やることが多すぎて投げ出しきくなることもあります。それでも、仲間と一緒に頑張る日々は充実し、楽しいと感じる瞬間がたくさんあるので、これまで続けられています。これからも、励まし合える友達、支えてくださる先生方、家族の存在を支えに、やるべきことをひとつずつ乗り越えていきたいです。まずはCBTに向けて頑張ります。

(4年 馬場 涼子)

○この夏、口腔内科学講座 野間教授に随行し、サンフランシスコにあるパシフィック大学歯学部 (Arthur A. Dugoni School of Dentistry) を訪れる機会を得ました。口腔外科インプラント手術の見学や口腔顔面痛の臨床見学、さらにはシミュレーションラボでの学生との交流を通じ、日本とは異なる教育環境や学習スタイルに触ることができました。特に印象的だったのは、学生一人ひとりが主体的に発言し、意見を交わしながら学びを深めている姿勢です。国境を越えて歯科医療を志す仲間がいることを実感し、自身の学びにも大きな刺激となりました。この経験を糧に、今後の勉強や臨床実習に真摯に取り組んでいきたいと思います。

(5年 赤松 孝則)

○歯科医師国家試験が近づき、私たち6年生はそれぞれの机に向かいながらも、常に仲間の存在を感じています。勉強の成果が数字に表れない時も、声を掛け合い励まし合うことで心が軽くなり、また前を向くことができます。6年間を共に過ごす中で築いた絆は大きな支えであり、誰かが頑張る姿は自然と周囲の力となります。国家試験は一人で臨むものですが、仲間と共に歩んできた時間が、確かな自信と落ち着きを与えてくれます。共に努力を重ねる仲間がいることへの感謝を胸に、最後まで着実に歩みを進めていきたいと思います。

(6年 渡邊 浩太郎)

## ほけん室 から

### ストレートネックと ドライアイ

学習や仕事上スマホやタブレット、PCなど長時間使用することが多いと思います。長い時間画面を見ていると、目が乾き、疲れたりすることがあると思います。また、人の首はゆるやかにカーブしていて、重い頭をクッションのように支えています。うつむいた姿勢を長時間続けていると首が直線に近い状態になるため、重たい頭をクッションなしで支えることになり頭痛、肩こり、首の痛み、めまい、ひどくなると吐き気、手足のしびれ、自律神経のみだれ、顔のたるみや歪みなど容姿にも影響が出てきます。これらを予防するため、使用する際は30分画面を見たら、20秒遠くを見る。目のストレッチ（上→下→左→右→左回り→右回り→ギュと閉じる→パッと開く）、首や肩のストレッチをして筋肉をほぐす。スマホやタブレットを見る時顔と同じ高さで使用する。PCを使用する時は猫背の姿勢にならないようモニターの位置や高さを工夫する。当たり前のことですが、健康を守りながらデバイスを利用していきましょう。

### 令和7年度 第1回 公開講座案内

7  
第1回  
(通算51回)

日本大学歯学部  
公開講座

演題 口から始める健康づくり  
～口腔細菌と全身の病気のお話し～

感染症免疫学講座 準教授 神尾 宜昌

日時 令和7年12月6日(土) 13時30分～15時終了予定  
※13時00分 受付開始

場所 日本大学歯学部本館7階創設百周年記念講堂

主催／日本大学歯学部  
東京都千代田区神田駿河台1-8-13  
<https://www.dent.nihon-u.ac.jp>

問い合わせ先 庶務課 03(3219)8001  
後援／千代田区  
協賛／日本大学総合生涯学習センター

事前申込QRコード

■定員 200名  
※事前申込を推奨しております。  
■マスクの着用に、ご協力をお願いします。  
■車での来校はご遠慮下さい。

聴講無料

■交通機関  
●JR中央線・総武線・御茶ノ水駅下車 徒歩2分  
●東京メトロ千代田線・新御茶ノ水駅下車 徒歩2分  
●東京メトロ丸ノ内線・御茶ノ水駅下車 徒歩5分

### 4学部合同選書ツアー開催

#### 図書館事務課

令和7年6月28日に、4学部合同学生選書ツアーを紀伊國屋書店・新宿本店で開催しました。法学部(参加学生11名)・経済学部(同1名)・三軒茶屋キャンパス(同8名)・歯学部(同2名)の4学部による開催で総勢22名の学生が参加しました。選書時間は1時間で、専用の端末を手に広大な書店の中を歩き回りました。その後、一人1冊のおすすめ本プレゼン大会が行われ、3分の持ち時間で参加者全員が発表しました。歯学部からの参加者2名は、学生選書委員として日頃から歯学部の選書に携わっていますが、今回は書店を歩いて選書し、他学部生と交流するという貴重な体験をすることになりました。選ばれた本は選んだ学生の所属する分館の所蔵資料となります。歯学部所属者は本学すべての図書館を利用できますので、他学部分館にも立ち寄ってみてはいかがでしょうか。法学部分館では1階フロアで展示しています。歯学部分館でも棚No16に専用コーナーを設け、今回の選書図書を置いていますのでぜひ手に取ってみてください。



## NewsPlus α

### ☆第57回全日本歯科学生総合体育大会解団式が開催されました

9月11日(木)17時30分から本館大講堂(創設百周年記念講堂)において、第57回全日本歯科学生総合体育大会解団式が開催されました。大会結果・写真等は、本号P5からP7ならびに背表紙を御覧ください。



### ☆自衛消防訓練が行われました

10月3日(金)に本館7階屋上にて、学生及び教職員を対象とした自衛消防訓練が行われました。次号にて報告いたします。

### ☆父母懇談会が実施されました

10月11日(土)に父母懇談会が開催されました。次号にて報告いたします。

### ☆桜歯祭が開催されます

10月31日(金)・11月1日(土)に桜歯祭が開催されます。次号にて特集しますので、桜歯祭の写真を桜歯ニュースに掲載しませんか。

庶務課 (de.general@nihon-u.ac.jp)まで件名を「桜歯祭写真提供」と記載して送付してください。みなさまからの写真をお待ちしています！

### ☆NU-DIRECTが開催されます

12月11日(木)に本館大講堂(創設百周年記念講堂)にてNU-DIRECTが開催されます。今年度からの新企画として、学内外の垣根を越えた交流を促進し、最新の臨床知見および研究成果を広く共有することを目的とした定期的な学術シンポジウムです。歯科医療を取り巻く環境が急速に変化する中で歯科臨床・研究の第一線に立つシンポジストによる発信を通じて、教職員、同窓会員、学生、他大出身者を含む幅広い層にとっての学術的リソースの提供を目的としています。開催の様子は次号に掲載いたします。

## 学事

### 歯学部行事予定

- |                   |                                                            |
|-------------------|------------------------------------------------------------|
| 10月 4日 (土)        | 日本大学創立記念日                                                  |
| 11日 (土)           | 父母懇談会                                                      |
| 18日 (土)           | 外国人留学生選抜、編入学試験、転部試験                                        |
| 25日 (土)           | 解剖体追悼法要                                                    |
| 31日 (金)・11月1日 (土) | 桜歯祭                                                        |
| 11月15日 (土)        | 学校推薦型選抜(公募制)<br>学校推薦型選抜(指定校制)<br>学校推薦型選抜(付属高等学校等)<br>校友枠選抜 |
| 22日 (土)・23日 (日)   | リーダーズキャンプ                                                  |
| 12月23日 (火)        | 卒業者発表                                                      |

### 科学研究費助成事業交付決定者

(令和7年9月1日付、課題番号順)

### ☆研究活動スタート支援

今岡 紗耶	澤田 憲	藤樹 立明	長谷 賢知
大熊理沙子			

## お知らせ

### 寄付金の受け入れ

(8.31 現在)

#### =研究助成金=

50万円	サンメディカル株式会社 歯科保存学第Ⅰ講座へ (代表取締役社長 中島 祥行 殿)	6.13
30万円	サンメディカル株式会社 歯科保存学第Ⅱ講座へ (代表取締役社長 中島 祥行 殿)	6.13
50万円	サンメディカル株式会社 歯科理工学講座へ (代表取締役社長 中島 祥行 殿)	6.13
50万円	サンメディカル株式会社 歯科補綴学第Ⅲ講座へ (代表取締役社長 中島 祥行 殿)	6.25
50万円	クラレノリタケデンタル株式会社 歯科保存学 第Ⅰ講座へ (代表取締役社長 山口 里志 殿)	8.29
50万円	クラレノリタケデンタル株式会社 歯科補綴学 第Ⅲ講座へ (代表取締役社長 山口 里志 殿)	8.29

#### =佐藤奨学・研究基金=

2万円	中島 一郎 殿	8.5
1万円	宮沢 裕夫 殿	8.5
3万円	村上 秀明 殿	8.6
5千円	内田 啓一 殿	8.6
1万円	大西 正明 殿	8.14
2万円	外木 守雄 殿	8.26

## 編集後記

今年は12年ぶりに全日本歯科学生総合体育大会の総合優勝という結果を聞くことができました。これは日頃の練習の成果の賜物でとても素晴らしい誇りに思います。自分自身の学生時代を振り返ると週3~4回の部活動に試験に実習と、今考えるととてもハードな学生生活を送っていましたが、そこで培った精神力・忍耐力・体力は今の礎になっていると感じることがよくあります。学生時代は何事にも全力で頑張れるができる絶好のチャンスなので、学生のみんなには学業はもちろん、それ以外の部活や学校行事等様々なことに積極的に一生懸命に取り組んで多くの経験をしてほしいと願っています。10月から11月にかけて行われる桜歯祭は学生さんが主体となって行われるイベントです。今年はどのような桜歯祭になるのか楽しみにしています。次号では桜歯祭の様子が掲載される予定です。(M.I)

表紙の写真は、第57回全日本歯科学生総合体育大会解団式の様子です。佐藤紀子先生(健康科学分野)にご提供いただきました。

第228号 日本大学歯学部発行  
東京都千代田区神田駿河台1-8-13 TEL 03 (3219) 8001



